看護学部におけるFD活動

ピアレビューの実施に向けて

看護学部FD委員会

プレゼン内容

1. 看護学部の現状
2. ピアレビューとは
3. 信州大学の取り組み
4. グループワークについて

１．看護学部の現状

ピアレビュー研修会
アンケート結果（看護学部）より

「ピアレビュー」への印象

・物理的・環境的に可能なのか
・日本の文化に馴染むのだろうか
・抵抗感が非常に強い
・教員管理（評価）に使用されるのではないか
・大学は批判的に見る目が強い
・ピアレビューを強制されるのではないか
・実習や授業に追われている中で準備できるのか
・領域が異なると授業の評価は難しいのではないか
・やってみないと分からない
・ピアレビュー自体がわからないのでコメントできない

「ピアレビュー」への印象

- 他の教員の授業を見てみたい
- 他の教員から意見をもらうことは大切である
- ピアレビューについて理解を深める必要がある
- 教員間でのピアレビューに関する共通認識が必要である
- 一方的なピアレビューであると、授業担当者の意図が理解されないことがあるのではないか
- 大学側が明確な方向性を提示する事が必要である

「ピアレビュー」実施方法

・批判会にならないようにすすめる必要がある
・お互いの信頼関係を形成してから
・段階的に進める
・まずはやってみる

2. ピアレビューとは

・教員同士がお互いの授業を公開し合い、授業内容や方法について検討、評価し合うもの

→授業を行うという立場を共有している為、授業に関する建設的な検討ができること、授業方法に関する知識や技術を共有できることなど、多くのメリットがある。

（愛媛大学教育企画室http://web.opar.ehimeu.ac.jp/words/より）

FD活動

■大学の理念・目標を理解するワークショップ
■ベテラン教員による新任教員への指導
■教員の教育技法を改善するための支援プログラ
■カリキュラム開発
■学習支援（履修指導）システムの開発
■教育制度の理解（学校教育法、大学設置基準、学則、単位制度）
■アセスメント（学生による授業評価、**同僚教員による教授法評価**、
　教員の諸活動の定期的評価）
■教育優秀教員の表彰
■教員の研究支援
■研究と教員の調和を図るシステムと学内組織の構築の研究
■大学の管理運営と教授会権限の関係についての理解
■大学教員の倫理規程と社会的責任の周知
■自己点検・評価活動とその活用

文部科学省：FDの定義内容より
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/003/gijiroku/06102415/006/003.htm

3. 信州大学の取り組み

信州大学におけるFDの設計を検討
（授業の**ピアレビュー**を中心に据えた
FDの設計）

１）ピアレビュー導入に向けて

（１）信州大学に「ふさわしい」FDの検討

（２）国内外の教員による授業の相互評価より、
　　ピアレビュー実施方法を検討

（３）教育システム研究開発センターの準備

（１）信州大学に「ふさわしい」FDの検討

■信州大学の特徴

・分散キャンパス

＊学部の独自性

＊相互のディスコミュニケーション

＊1年生に対する教育が手薄

→大学の学びに移行しきれない学生が多い

人文学部、教育学部、経済学部、理学部、医学部、工学部、農学部、繊維学部

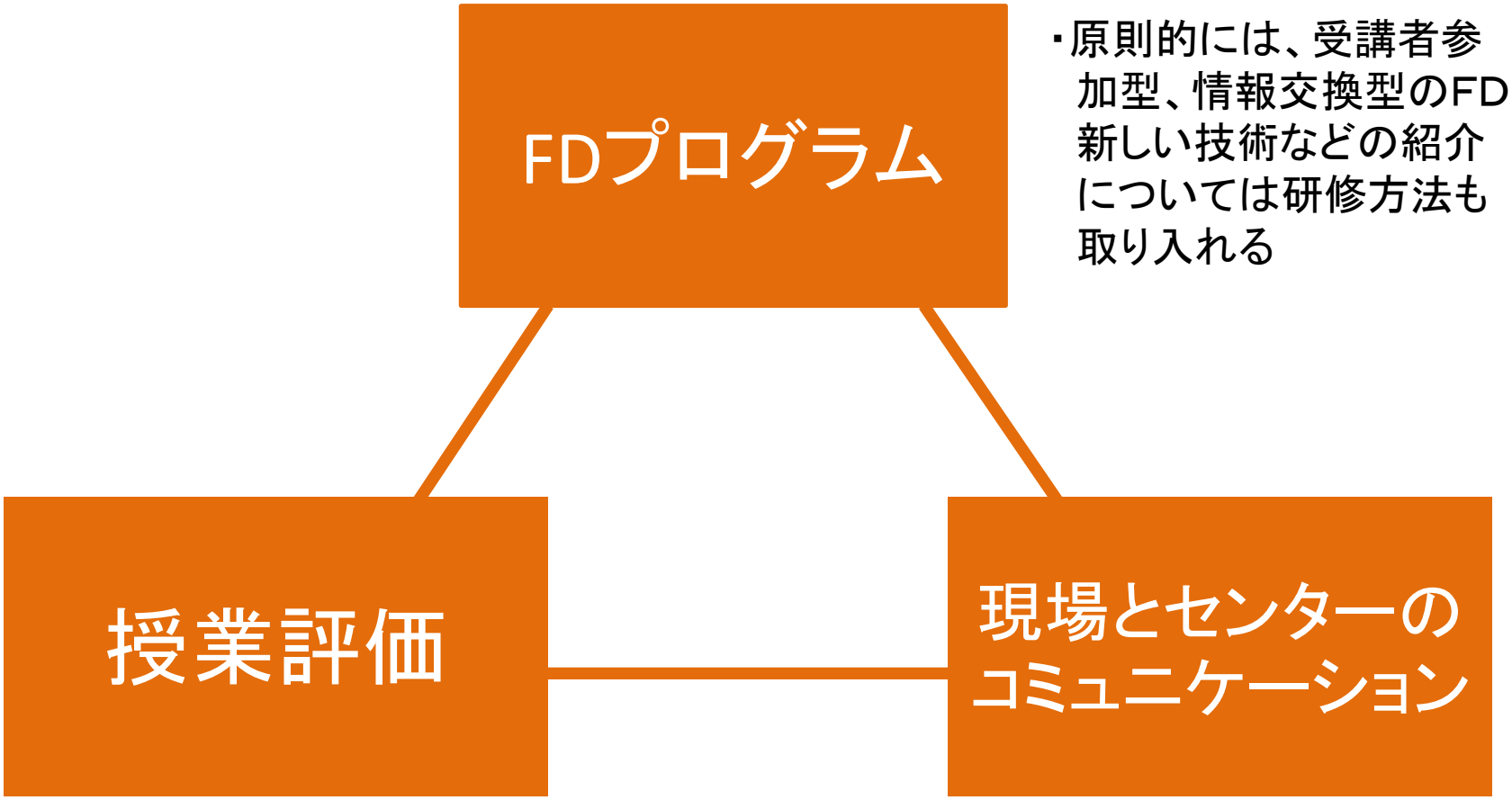
■信州大学のFDの方向性

①独自性と多様性を持つ個々の授業に即した、多面的できめ細やかな評価が実践されること

②教員の視点からの評価も行われること

③授業支援を充実させること

④キャンパス間のディスコミュニケーションを解消するものであること



・原則的には、受講者参加型、情報交換型のFD。新しい技術などの紹介については研修方法も取り入れる

・教員による評価と学生による評価、点数化と質的評価の組み合わせ

・意見表明、ニーズの発信、支援・情報の提供

（２）国内外の教員による授業の相互評価の試みより、ピアレビュー実施方法を検討

①英国のSD（staff　development）プログラム

◆ appraisal system　＋　研修制度

・appraisal systemとは、英国の大学で１９世紀後半から行われている教員評価システム

・教員は教育や研究、大学運営における自らの実績を記入したアプレイザル・シートを準備し学科長の面談を受ける。

・面談の結果、必要に応じてSDオフィスが提供するプログラムを受講

②京都大学の「公開実験授業」

・１９９６年から京都大学高等教育教授システム開発センターのプロジェクト

・京都大学教授の授業を他の教員が参観し、授業者と授業を参観した教員が討論会をもつ

・「授業実践」「教員相互研修」「授業研究」という3つの目的をもつ

２）ピアレビュー導入初期の状況

≪1年目：前期≫

・1つの授業におけるピアレビューの導入

- 授業参観者は毎週授業を参観
- 授業の検討会を1回/2ヵ月。1時間程度で実施。主に「授業方法」に関するレビュー（参加者が学ぶことに力点を置く）
- 検討会参加者は授業担当者1名、教員3名
- 教育研究開発センターに対する警戒

【成果、問題点・課題】

＊授業方法の工夫を相互に学ぶ機会

＊授業の毎週参観は時間的に困難

＊検討会の話題が共通なものになる

≪1年目：後期≫

・授業は常時公開し可能な範囲で参観

・2つの授業を公開

・ 1回/2ヵ月で両授業の検討会を同時に開催

・民間企業の方の参加

【成果、問題点・課題】

* 授業方法の工夫を相互に学ぶ機会
* 意見交換、交流の場
* 検討会の話題が共通
* マンネリ化による参加意欲の低下危惧

≪2年目≫

・36の授業が参加

・参加授業のリストをセンターのWebページで公開し、教員であればだれでも参観可能とする

・検討会を行う授業をあらかじめ決定し、プロジェクト参加者にその情報を流して当該授業の参観を依頼

・検討会は1回/2ヵ月、1回1時間程度で実施

・検討会では、最初に授業担当者から授業の概要、目的、工夫点などが説明され、その後に意見交換や討議を行う。参加者は7～8名

【成果、問題点・課題】

* 授業数の増加
* 検討会の持ち方の工夫により授業参観の数が少なくとも（または無でも）参加が可能になった
* 参加授業の数が増えることでマンネリ化が解消
* 遠隔キャンパス同士の教員の交流
* センターが教員のニーズを把握できた
* 予測していなかったFDニーズの発見
* 大学のFDの再設計と再確認
* 専門分野が異なる為、話題が深められない
* 継続に向けての対策（制度化・義務化）

4. グループワークについて

【テーマ】

看護学部におけるピアレビューへの期待

・どのようなピアレビューが可能か

・どのようにピアレビューを進めるか

・看護学部に必要なピアレビューとは